



長尾坂の石仏



捻木の杉



## 近世の石畳道と紀伊水道を望む峠

### 長尾坂・潮見峠越

田辺市郊外の三栖地区から長尾坂・捻木峠を経由して潮見峠に至る古道です。長尾坂はこのルートのうち、上三栖から水呑峠に至るおよそ1.7kmの坂道をさします。長尾坂も潮見峠越も南北朝期に開設されたといわれ、以降、中辺路の主経路として頻りに利用されました。

捻木峠からの眺望



長尾坂



茶の端の役行者像

# 北郡越 長尾坂・潮見峠越

## 熊野古道 その3

能楽や歌舞伎で知られる「安珍・清姫物語」のヒロイン清姫は、現在の田辺市中辺路町真砂に生まれたとされています。一般に語られる物語は、安珍に逃げられた清姫が蛇となって日高川を渡り、道成寺の鐘に隠れていた安珍を鐘もろとも焼き殺したというものです。しかし、清姫の故郷の真砂に伝わる話は違います。清姫は真砂の荘司だった藤原清重の娘で、熊野参詣に向かう安珍は清重の屋敷を宿にしていた。

## 清姫伝説

美しい清姫に安珍はいつか妻にと言ひ寄り、清姫も安珍の言葉を信じました。ところが、熊野参詣を終えたら妻にすると約束しながら、安珍は真砂に戻りませんでした。清姫は、安珍の裏切りを知って嘆き悲しみ、富田川の淵に身を投げました。真砂には今も清姫の墓など、清姫伝説を語る遺跡がいくつも残されています。



清姫の墓

北郡越の道



みそぎの川・富田川沿いに延びる古道



### 北郡越

「熊野古道中辺路」のうち、鮎川から富田川沿いに現在の中辺路町北郡を経て、滝尻王子に至る古道です。10世紀前半から13世紀にかけての皇族・貴族の参詣には頻りに使われましたが、15世紀以降は潮見峠越が主経路となり、江戸時代にはすでに「古道」と呼ばれていました。



道祖神と庚申塔



湯の峰温泉



赤木越の道

## 熊野本宮大社へと続く道

熊野古道では滝尻から熊野本宮大社に至るルートが有名ですが、ほかの熊野古道ルートにも目を向けてみましょう。熊野本宮大社に至る中辺路から分かれて湯の峰温泉に至る**赤木越**、熊野古道中辺路最大の難所といわれる**大雲取越・小雲取越**、吉野山へと続く修験道の道**大峯奥駈道**、高野山と熊野本宮大社を結ぶ**小辺路**などです。大雲取越・小雲取越は、熊野那智大社から熊野本宮大社へと向かう道で、標高800～1000mの山塊を越えて続きます。また、短いながら湯の峰温泉と熊野本宮大社を結ぶ**大日越**も歩いてみたい道の一つです。

弘法大師を祀る祠



玉置神社(大峯奥駈道) MAP和歌山県D-5



なべわり地藏

### 赤木越・大日越

熊野古道中辺路の三越峠から湯峯王子へと向かう道で、室町時代以降、より容易な通行が可能なルートとして開かれたといわれています。峠を越え発心門王子手前の船玉神社近くから分岐し、あとは本来の尾根道が続く約6.7kmの快適な道です。熊野詣の人々は湯の峰温泉で旅の疲れを癒すとともに身を清め(湯垢離)、大日越を歩いて熊野本宮大社に詣でました。



修験者

### 大峯奥駈道

「吉野・大峯」と「熊野三山」を結ぶ大峯奥駈道は、修験道の開祖役行者が開いた、修行の道です。修験道は、大自然の中での修行を通じて超自然のパワーを身に付けて衆生を救うという宗教です。大峯奥駈道はその険しさをはじめ、入山時期の制限や、女人禁制の場所もあり、観光目的で気軽に訪ねる場所ではありませんが、奥駈道の一部を歩くだけでも山岳のパワーと神秘の一端を感じることができます。

### 小辺路

「高野山」と「熊野三山」を結ぶ道です。高野山から本宮へは「熊野道」、本宮から高野山へは「高野道」と呼ばれました。高野山から奈良県の野迫川村、十津川村を通過して熊野本宮大社へ至ります。1000m級の峠を4つも越える険しい道ですが、宿舎や茶屋の跡、石畳道など古道らしいたずまいを各所で見ることができます。十津川村の果無集落では、絵のような風景がしばしば険しい道を忘れさせてくれます。



果無集落



月見ヶ丘神社(大日越) MAP 4B-2

# 赤木越・大日越 大雲取越・小雲取越 小辺路・大峯奥駈道

## 熊野古道 その2